博物館だより リイシリ 377 号

2026.10

☎ 0163-85-1411
✉rishiritownmuseum@town.rishiri.hokkaido.jp
〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志本町 136

11/9～ 移動博物館

今年は沓形町と仙法志村が合併し、「利尻町」が誕生してから 70 年となる年です。この 70 年間で、島を大いに盛り上げたニシンの終焉や人口の減少など、利尻島を取り巻く状況は様々に変化していきました。そこで、今回の移動博物館では「資料から見る利尻町 70 年の歴史とくらし」展を行います。これまで博物館が収集してきた、街並みや鰊漁などの当時の様子がわかる写真や新聞ほか記念品などの資料をもとに、70 年前と今とで人々のくらしがどのように変化してきたかを改めて振り返ってみませんか。また期間中、学芸員が常駐している時間もありますので、当時の状況などご存じの方はぜひとも情報提供ください。

【事業名】第 6 回移動博物館 「資料から見る利尻町 70 年の歴史とくらし」展**【期間・場所】**①仙法志支所ロビー：11/9（月）～ 11/13（金）、②どんと（ホワイエ）：11/17（火）～ 11/23（月）。

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

■仙法志支所ロビー
■どんと　ホワイエ

11/13 フィールド発表会

利尻島は自然・歴史どちらの面からも、調べがいのある魅力的なフィールドです。しかし、離島という地理的都合上、その成果を発表したり、議論したりする場は限られてしまいます。そこで、博物館では毎年 11 月ごろに利尻富士町教育委員会、利尻島調査研究事業事務局と共催で、フィールド発表会を開催しています。この発表会では、当館学芸員をはじめとして島で活動しているフィールドワーカーにより、プロ・アマチュア、自然・歴史の分野を問わず、その成果が発表されます。日頃みなさまが利尻のフィールドで調べていること・見つけたことを発表してみませんか？質疑応答の時間もあるため、情報交換の場としてもお使いいただけます。もちろん聴講のみでのご参加も大歓迎ですので、気になる方はぜひご参加ください。

【事業名】フィールド発表会**【日時】**11/13（金）18：30 ～ 20：00（途中入退場可）。悪天候等で順延の場合は 11/14（土）15：30 から行います。**【場所】**利尻富士町交流促進施設「りぷら」。**【講演時間】**発表は一人 10 分、質疑応答は 2 ～ 3 分程度を予定。パワーポイントなどで作成したスライド形式のほか、口頭のみでも発表可能。**【申込】**一般参

11・12月の開館カレンダー

月曜日および祝日の翌日のほか、12/28 ～ 1/6 は年末年始につき休館となります。

◯祝日・休日　／休館日

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

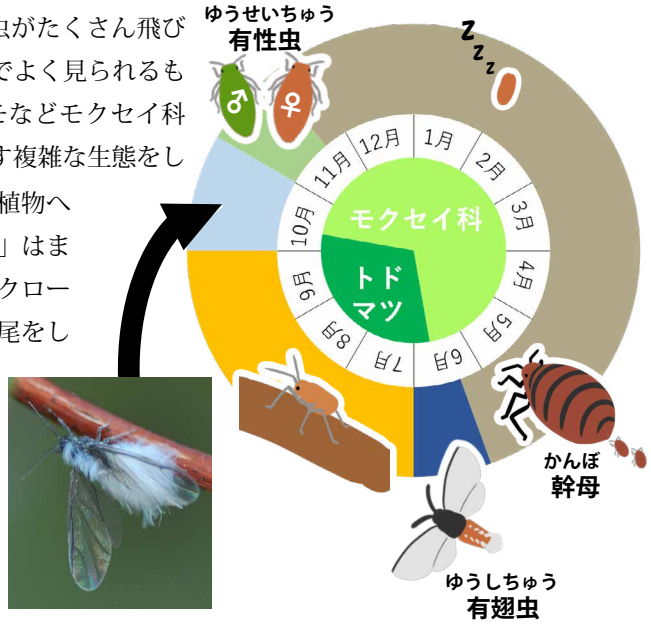
2027 1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

観察会などへのお申込は電話、メール、博物館 HP のお問い合わせフォームから。もし返信がない場合は電話にてご確認ください。

利尻四方山話（りしりよもやまばなし）　その９　雪虫（ゆきむし）（トドノネオオワタムシ）

利尻島を含め北海道では、10月ごろに「雪虫」と呼ばれる白い虫がたくさん飛びまわる光景が見られます。その正体はアブラムシの仲間で、利尻でよく見られるものは「トドノネオオワタムシ」という種です。本種は、ヤチダモなどモクセイ科の樹とトドマツとを移動しながら、1年の間に複数世代を繰り返す複雑な生態をしています。我々が目にする「雪虫」は、トドマツからモクセイ科植物へ移動している最中の個体です。モクセイ科植物に移動した「雪虫」はまず幼虫を産みます。本種のほとんどの世代は♀のみで交尾をせずクローンを産んで増えますが、この時のみ♂♀（有性虫）が産まれ、交尾をして冬を越すための卵を産みます。春に卵からふ化した幼虫は、はねの無い成虫（幹母）となり、たくさんの幼虫を出産します。この幼虫が成長するとはねのある成虫（有翅虫）となり、6月ごろにトドマツの根近くへ移動して幼虫を産みます。その後夏から秋にかけて、単為生殖で数世代を繰り返して数を増やし、冬の直前にまた新たな「雪虫」が誕生します。



加者は博物館までメールまたはお電話にて、⑴お名前、⑵前・当日つながる電話番号をお知らせください。発表希望者は博物館HPからエントリーシートをダウンロードし、11/9（月）までに要旨（500字以内）等を博物館にご提出ください。

事業報告　池の生き物観察会

９月５日に、森林公園池の森にて池の生き物観察会を行いました。6月の開催予定日は悪天で中止になりましたが、今回は天候に恵まれ無事開催できました。当日は９月にしては暖かく、トンボ類のほか、ゲンゴロウなども活発に動き回っていました。昆虫のほか、プランクトンネットで微小な生物を採集し、どんな生物がいるか顕微鏡で観察しました。参加者の方には、昆虫などの目に見える生き物だけでなく、ミジンコ類やカイアシ類など微小な生物についても改めて意識していただき、人工的な環境でも侮れない生物多様性の一端を体験していただけた事と思います。

お知らせ　当館FAXについて

博物館では、今後FAX回線の廃止を検討しております。そのため、今後はメールまたは電話でのご連絡をよろしくお願いいたします。皆様には大変ご不便をおかけして申し訳ありませんが、何卒ご理解いただけますと幸いです。

掲示板

資料寄贈　▼鉛筆２点（利尻町商工会）、9/11。　▽貴重な資料のご寄贈、まことにありがとうございます。

傷病鳥　▼アオジ、8/16、沓形日出町。　▼メボソムシクイ、9/30、沓形富士見町。　▼ウグイス、10/8、沓形本町。　▽貴重なサンプルのご提供、まことにありがとうございます。いただいたサンプルは今後標本化の予定です。

リイシリの購読・閲覧　博物館のホームページにて、最新号のほか過去２年分のバックナンバーを公開中。発行時に配信する「発行お知らせメール」もありますので、ぜひご利用ください。ネット環境が無い方、メールでの受け取りが出来ない方の場合、利尻町内の方には無料でお配りしているほか、町外の方には郵送料のご負担をいただければ定期購読も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

編集後記　クマやヘビのいない島で危険な生き物といえばハチです。秋はスズメバチが活発になる時期です。倉庫の中など思いもよらぬ場所に巣を作っていて、刺されてしまう事例もあります。普段は攻撃性が低い種でも、巣に近づくと襲い掛かってくるため、うっかり近づかないよう注意しましょう。また、冬が近づくと巣立った新女王が越冬のために家に入ってくることがあります。刺激しなければ刺してくる事はほぼ無いので、冷静に対処しましょう。

雪虫の白い部分は体の一部ではなく、分泌されたロウが固まったものなので、触るとポロっと取れてしまうことがあります。